

キルギス共和国  
日本人材開発センター  
事前評価調査団報告書

平成15年3月

JICA LIBRARY



1172608[0]

国際協力事業団  
アジア第二部

地二東
JR
02-10

**キルギス共和国**  
**日本人材開発センター**  
**事前評価調査団報告書**

平成15年3月

**国際協力事業団**  
アジア第二部



1172608[0]

## 序 文

キルギス共和国は1991年の独立以降、市場経済体制への移行に伴う各種改革を急速に推進しており、なかでも経済発展の基礎となる人材開発に重点的に取り組もうとしています。

一方我が国は、アジアの市場経済化移行国を対象に、市場経済化を支える人材の育成と、日本の「顔の見える協力」を実現する拠点として「日本人材開発センター」（通称「日本センター」）を開設する計画を進めており、これまで中央アジアのウズベキスタン、カザフスタンを含む5ヶ国で事業を実施しています。平成15年3月末に支援委員会が廃止されることにともない当事業団がキルギス日本センター事業を引き継ぐことが予定されています。今般、2003年2月14日から同26日まで（一部団員は3月1日まで）国際協力事業団国際協力専門員石田滋雄を団長とする事前評価調査団を現地に派遣しました。同調査団はキルギス側と協議の結果、Minutes of Meetingsを取り交わし、2003年4月から当事業団が事業を引継ぐことについてキルギス側関係機関と基本的合意に至りました。本報告書は同調査団の調査・協議結果を取りまとめたものであり、今後のプロジェクトの進展に広く活用されることを願うものです。

ここに、本調査にご協力いただいた外務省、在カザフスタン日本大使館など、国内外関係各機関の方々に深く謝意を表するとともに、引き続き一層のご支援をお願いする次第です。

平成15年3月

国際協力事業団  
理事 泉 堅二郎

## 目次

序文

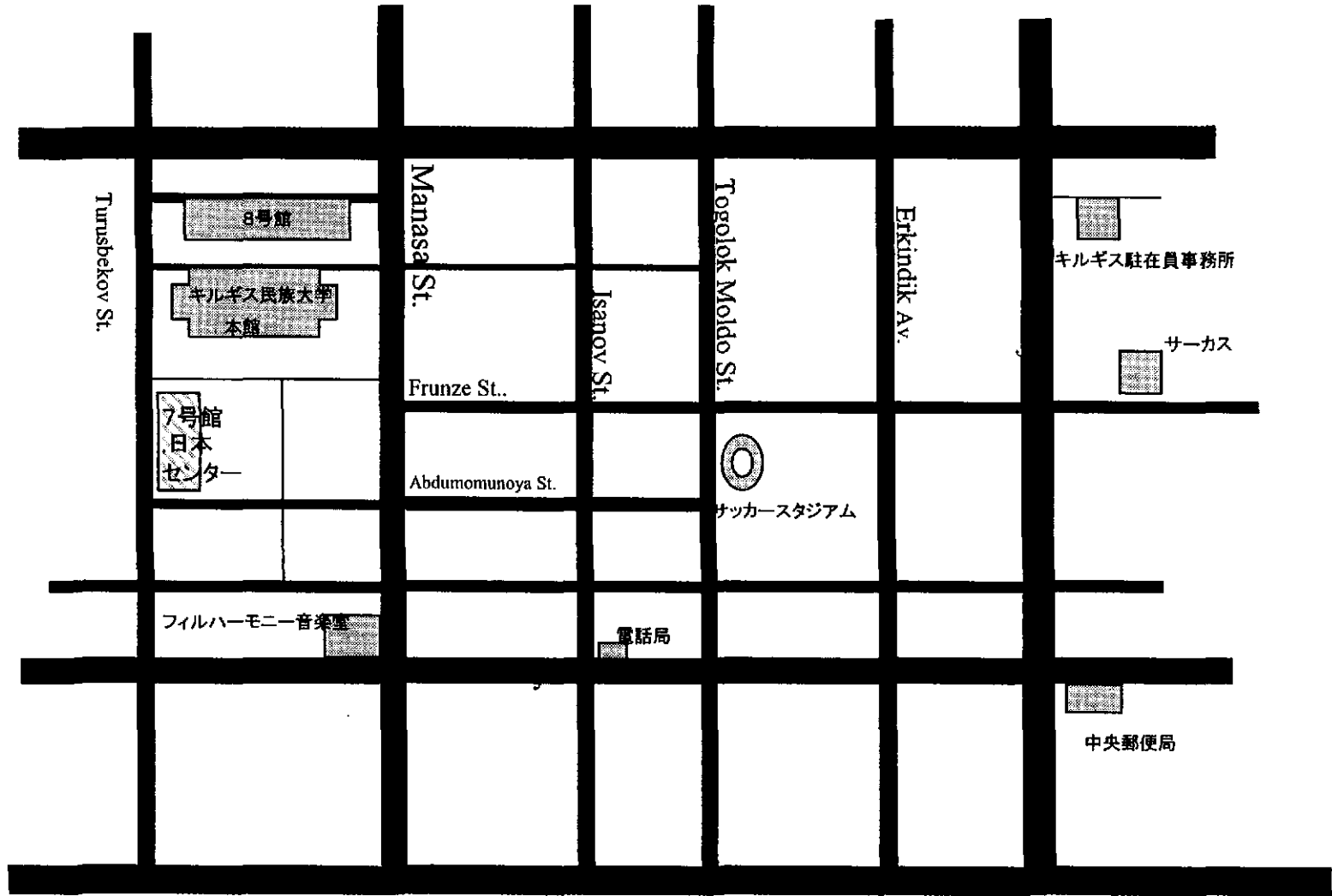
目次

地図

写真

1. 調査団概要	1
1-1 調査の背景・経緯	1
1-2 調査の目的	1
1-3 調査の基本方針	1
1-4 調査団の構成	2
1-5 調査日程	3
2. 調査結果	5
2-1 協力の基本的枠組み	5
2-2 キルギス日本センターのこれまでの活動の評価	7
2-2-1 キルギス日本センターの概要（2003年2月現在、 キルギス日本センター作成の資料による）	7
2-2-2 経済講座	11
2-2-3 日本語講座	52
2-2-4 施設及び機材の状況と今後の計画	55
3. 合意内容の確認	69
Minutes of Meetings	69
4. 調査団所感	83
付属資料	
1. 面会者一覧	85
2. 現地収集資料	87

# ビシュケク市街(中央)



ビシュケク第2鉄道駅





協議



M/M署名



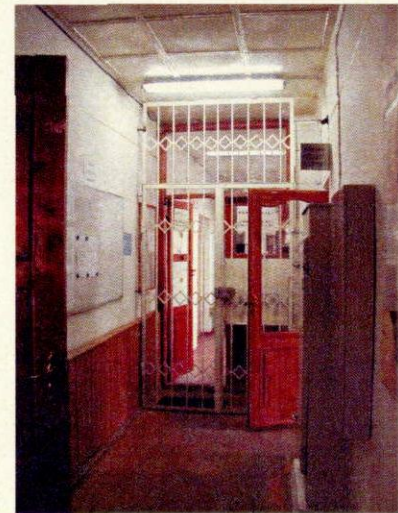
7号館入口(センターの看板あり)



7号館正面

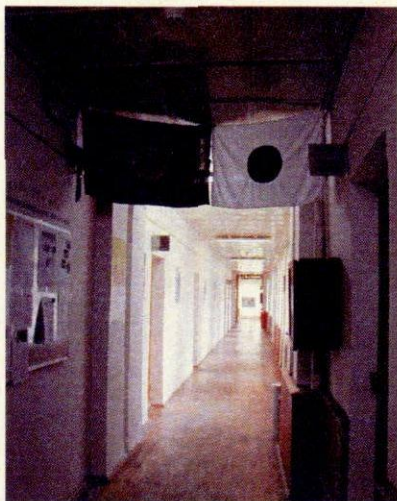


センター入口(向って左側のドアが入口)



センター入口(センター内側から)

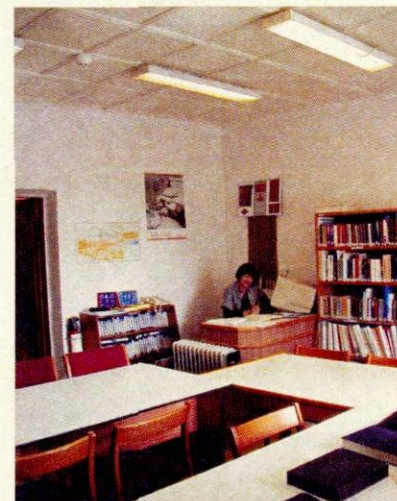




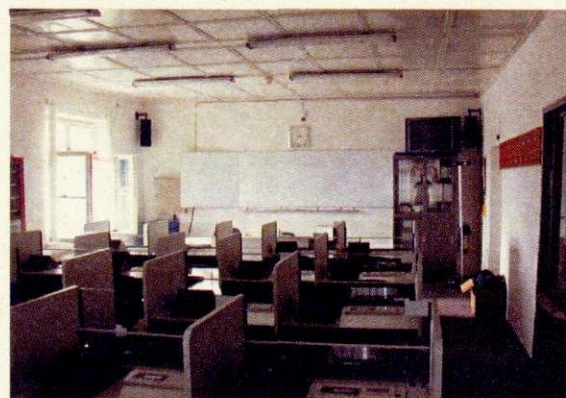
センター内廊下



図書室



図書室



LL教室

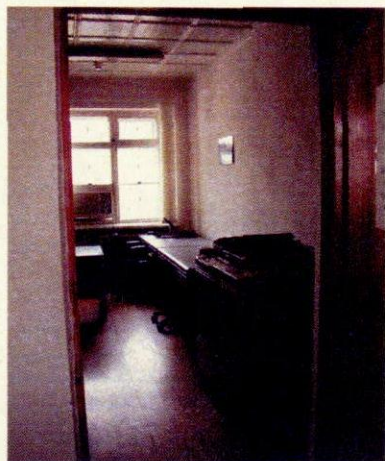


日本語コース講師室

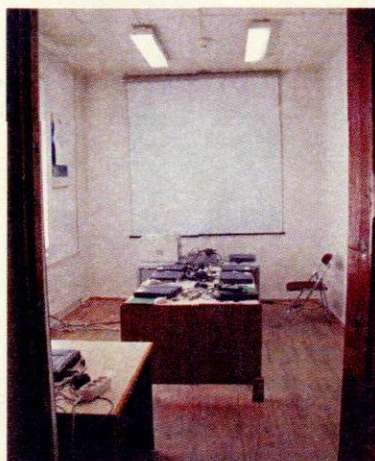


セミナー室





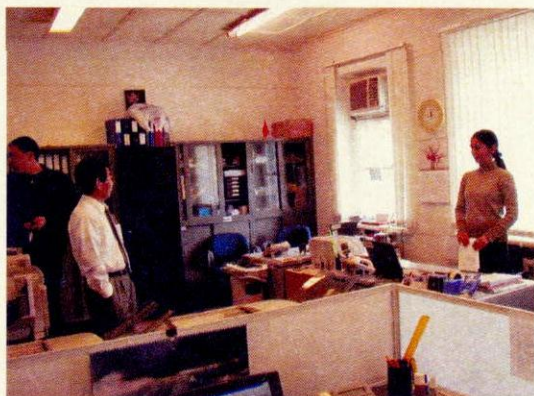
資料準備室



コンピューター室(外側から)



コンピューター室(外側から)



センター職員 執務室

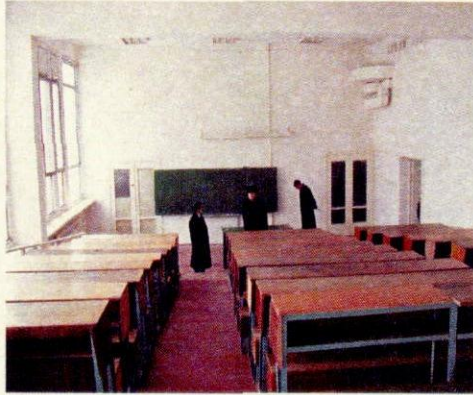


拡張サイト候補 (site-1)

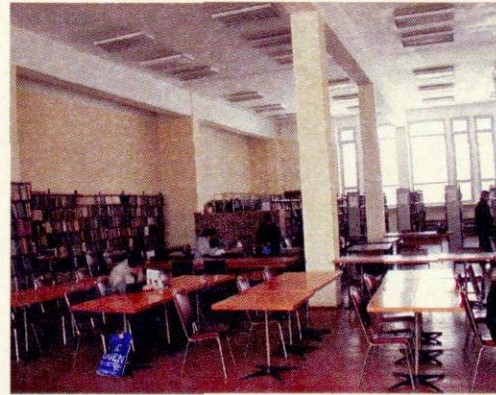


拡張サイト候補 (site-1)

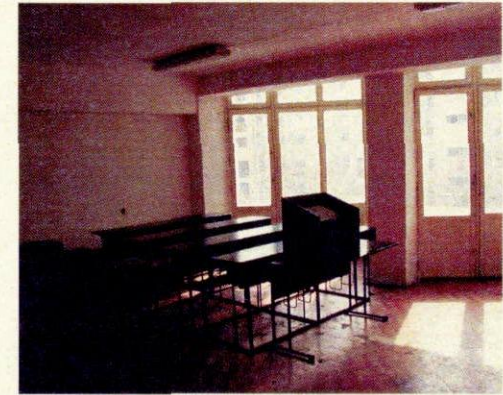




拡張サイト候補 (site-1)



拡張サイト候補 (site-1)



拡張サイト候補 (site-2)



拡張サイト候補 (site-3)



拡張サイト候補 (site-4)

## 1 調査団概要

### 1-1 調査の背景・経緯

- (1) キルギス日本センターは、キルギス共和国（以下「キルギス」という。）における市場経済への移行を目指す改革の促進および経済分野における人材の育成を目的として、キルギスと国際機関である支援委員会との間の1995年4月14日「キルギス日本センターの整備及び運営に関する支援委員会決定」により設置がきまり、1995年4月25日の合意書に基づき、1995年5月18日に正式に開所された。
- (2) 平成14年度末に支援委員会が廃止されることに伴い、日本とキルギスの二国間政府技術協力事業として、国際協力事業団（以下「JICA」という。）がキルギス日本センター事業を引き継ぐ方向で検討がなされている。
- (3) 他方、我が国はアジアの市場経済化移行国を対象として、市場経済化を支える実務人材を育成するとともに、日本の「顔の見える協力」を実現する拠点として、これまでベトナム、モンゴルをはじめ5ヶ国（中央アジアではウズベキスタンとカザフスタンの2カ国）に6カ所の「日本センター」を開設し、各国で特徴ある事業を展開してきている。
- (4) 今回の調査にて、平成14年度末をもって支援委員会が廃止され、キルギス日本センター事業については、日本国政府の技術協力の一環としてJICAが事業を引き継ぐ形で検討されていることを先方政府関係者に説明すると共に、今後の技術協力の基本的枠組みについて先方とコンセンサスを形成し、平成15年度からのスムーズな事業移管が出来るように準備をする必要があるため、今回調査団を派遣するものである。

### 1-2 調査の目的

現在、支援委員会により運営されているキルギス日本センターを、平成14年度末に支援委員会が廃止されることに伴い、JICAが事業を引き継ぐにあたり、これまでの活動の評価を関係者からのヒヤリング等により確認し、今後JICAが事業を実施する際の活動内容策定のための検討資料とする。また、既存のセンター施設で事業を実施する場合の施設・機材の課題等について調査し、必要な措置について先方政府と協議する。併せて、二国間政府技術協力で実施する場合の協力の基本的枠組み（実施機関、実施体制、協力の内容、両国の取るべき措置等）について、先方と協議する。

### 1-3 調査の基本方針

- (1) 支援委員会により運営されていた日本センター活動の評価を行う。特にビジネスコースの評価に関し、ヒヤリング、アンケート等を行う対象者は以下を予定している。
  - (ア) 元受講生

- (イ) 元受講生の所属する企業幹部
- (ウ) 現地企業（日系企業を含む）
- (2) 今後 JICA 事業を実施するにあたり以下を調査・確認する。
  - (ア) ビジネスコースのニーズ
  - (イ) 現地に存在するビジネススクールの現状
  - (ウ) 現在のキルギス日本センターの施設及び機材の現状と課題
  - (エ) 追加調達の実現性がある資機材の現地調達の可能性
  - (オ) センター以外の施設を借用して活動を実施する場合の可能性
  - (カ) その他
- (3) 協力の基本的枠組みについて、先方と協議し、コンセンサスを形成する。コンセンサスの内容をミニッツで確認する。
  - (ア) 実施機関
  - (イ) 実施体制
  - (ウ) 実施場所
  - (エ) 協力の内容
  - (オ) 両国の取るべき措置等
- (4) 今後の実施にむけたスケジュール等について協議する。協議の結果をミニッツで確認する。
  - (ア) 実施協議の時期
  - (イ) 平成15年度以降の取り組み

#### 1-4 調査団の構成

総 括：石田 滋雄 国際協力事業団 国際協力専門員  
協 力 政 策：岩田 哲弥 外務省経済協力局技術協力課 事務官  
協 力 企 画：魚屋 将 国際協力事業団アジア第二部東アジア・中央アジア課  
職員  
事業評価・需要調査：北館 尚子 (株)パデコ コンサルティング本部 プロジェクト・  
コンサルタント  
施 設 機 材 計 画：吉田 清 (株)エディトコンサルタンツ 代表取締役  
通 訳：菊次 厚子 (財)日本国際協力センター



1-5 調査日程

キルギス日本センター事前評価調査団

官	コ	月 日	曜	現地時間	日 程		
					官団員	コンサルタント団員	
1		2月14日	金	12:40 16:10	成田発(BA-008) ロンドン着		
2		2月15日	土	13:45	ロンドン発(BA-6725)		
3	1	2月16日	日	4:20	ビシュケク着	12:40 成田発(BA-008)-16:10ロンドン着	
4	2	2月17日	月	10:00 14:00	JICAキルギス事務所打ち合わせ キルギス日本センター所長打ち合わせ	13:45 ロンドン発(BA-6725)	
5	3	2月18日	火	9:30 11:30 14:00 17:00	キルギス国経済省次官表敬・打合せ キルギス国教育文化省表敬・打合せ キルギス民族大学表敬・打合せ キルギス国外務省表敬・打合せ	04:20 ビシュケク着	
6	4	2月19日	水	終日	キルギス民族大学と協議		
7	5	2月20日	木	10:00 15:00 16:00	キルギス民族大学と協議 財務省とM/M案に関し協議 外務省とM/M案に関し協議		
8	6	2月21日	金	8:30 11:00 17:30	外務省とM/M案に関し協議 キルギス民族大学と協議 M/M署名・交換		
9	7	2月22日	土		ビシュケク→アルマティ	終日 資料整理	2/21-27現地調査を継続
10	8	2月23日	日		資料整理	5:45 ビシュケク発(BA-6726) 11:25 ロンドン着 12:25 ロンドン発(BA-005)	
11	9	2月24日	月	10:00	在カザフスタン大使館報告	9:01 成田着	
12	10	2月25日	火	4:10 6:25 13:40	アルマティ発(LH-647) フランクフルト着 フランクフルト発(LH-710)		
13	11	2月26日	水	8:55	成田着		
	12	2月27日	木				
	13	2月28日	金			07:20 ビシュケク発(BA-6726) 13:00 ロンドン着 14:20 ロンドン発(BA-007)	
	14	3月1日	土			11:00 成田着	